2014 年 2 月 13 日
第 5 回知の市場年次大会
記念講演要旨

社会と世界の中の大学教育―お茶の水女子大学の目指すもの―

お茶の水女子大学長　羽入　佐和子

今とくに国立大学に寄せられている期待は大きく、それは次の二点にあるといえます。

一つは、社会的役割を果たすことであり、他はグローバル化を先導することです。

社会的役割を果たすためには、教育の成果や研究成果を社会に還元する姿勢と、その仕組みを開発し提供することが必要ですが、そのために、社会的に有用な成果を上げることのできる高度な専門性を修得した次世代の育成が、高等教育機関である大学の最大の使命です。

また、グローバル化が加速する現在、大学には常に世界の状況に敏感であり、同時に適切に対処することが求められています。

社会からの期待に応えるべく、お茶の水女子大学では先進的に教育改革を断行してきました。

その一つが新しい学士課程教育、「21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育」と「複数プログラム選択履修制度」です。

この教育システムが目指しているのは、学生が広く深い教養と高い専門性を身につけ、人類にとって未経験の課題に対しても果敢に挑戦する能力を練磨することですが、それは学士課程に限らず、博士課程においても同様です。例えば、平成 25 年度に開始した博士課程教育リーディングプログラムでは、とくに産業界で理工系の女性が活躍できる人材の育成のための教育プログラムを整えました。

また、グローバル化に対しては、平成 24 年度に文部科学省の事業「グローバル人材育成推進事業」に採択され、これまで以上に全学のグローバル化を重点課題として強化しています。

本学の調査によれば、学生のおよそ 70%が海外で学ぶことを希望しています。彼女たちの夢をかなえるべく、語学力の強化、派遣制度の拡充に加え、平成 26 年度からは四学期制を導入することにしました。

こうした取組みが目指している人材像は、「深い教養」と「広い専門性」によって、リーダーシップを発揮できる女性リーダーです。

そのために本学では教育の理念を「知識」、「見識」、「寛容」としています。

社会に有用な知識を提供するには、堅固な知識の習得が必須であり、その知識を基盤として、物事を適切に判断する能力、つまり「見識」を高める必要があります。また、グローバル社会に身を置くことは、多様な文化、多様な価値観に向き合うことでもあり、その経験を通して「寛容」な姿勢が培われるはずです。

この教育理念の下、本学で学んだ人々は、社会で、そして世界で、それぞれに持てる力を発揮して豊かな未来を創りあげてゆくに違いないと期待しています。